

2. 平成27年度徳島大学教育再生加速プログラム事業自己評価結果一覧表

評価基準（評価指標）

- 4：十分に達成できた
- 3：おおむね達成できた
- 2：達成が必ずしも十分ではない
- 1：達成できなかった

1. SIH 道場の実施と改善

1	SIH 道場の実施と改善	根拠資料	自己評価
1-1	各教育プログラムは適切に設計・運営・実施されたか	「SIH 道場授業運営現状確認リスト」「授業設計表（概要）」 「授業設計表（詳細）」「SIH 道場プログラム設計評価シート」	3
1-2	学生は SIH 道場の目標に到達したか	「SIH 道場プログラム設計評価シート※」 「学生対象 SIH 道場アンケート」 ※授業設計コーナーが作成	4
1-3	教員は SIH 道場の目標に到達したか	「教員対象 SIH 道場アンケート」「SIH 道場授業運営現状確認リスト」	2
1-4	次年度のプログラム改善に向けた検証が実施されたか	「学生対象 SIH 道場アンケート」「教員対象 SIH 道場アンケート」 「SIH 道場プログラム設計評価シート」「SIH 道場に関する評価・改善 WG」報告、「SIH 道場の取組と課題」報告※AP 実施専門委員会が作成	3
1-5	実施のための支援（教育改革推進部門、ICT 活用教育部門、SIH 道場コンテンツ作成 WG 等）は適切に行われたか	「必須項目設計表」サンプル、「授業詳細」例示資料、学生用テキスト、 反転ビデオ教材、振り返りフォーマット※コンテンツ作成 WG が作成 「SIH 道場の授業設計・実施・評価に関する支援」報告	4

2. アクティブ・ラーニングの普及

2	アクティブ・ラーニングの普及	根拠資料	自己評価
2-1	アクティブ・ラーニングを学士課程全体に波及させるための環境整備が適切に行われたか	案内「アクティブ・ラーニングスペース教室」 貸出用関連図書リスト、「eポートフォリオシステムの構築」報告	4
2-2	アクティブ・ラーニングを学士課程全体に波及させるための取組が効果的に実施されたか	アクティブ・ラーニング事例カード※総合教育センター教育改革推進部門が作成、 「AP シンポジウム（「アクティブ・ラーニング」「反転授業）」報告	2

3. 事業運営の体制

3	事業運営の体制	根拠資料	自己評価
3-1	AP 実施専門委員会の組織構成は、事業目的に照らして、適正なものであったか	「徳島大学 AP 実施専門委員会規則」「AP 実施専門委員会委員名簿」「AP 事業実施体制図」「AP 事業実施報告書」	4
3-2	AP 実施専門委員会の運営は、事業目的に照らして、適正なものであったか	AP 実施専門委員会会議資料 「AP 事業実施体制図」「AP 事業実施報告書」	3
3-3	事業の効果検証に基づき、改善に繋げるための PDCA サイクルが整備されていたか	「AP 事業全体事業評価計画※」「SIH 道場評価一覧※」「AP 事業実施報告書※」※AP 実施専門委員会が作成	3

4. 情報公開

4	情報公開	根拠資料	自己評価
4-1	AP 事業の取組を学内へ適切に広報し共有していたか	徳島大学ウェブページ「大学教育再生加速プログラム (AP)」「SIH 道場振り返りシンポジウム」報告、AP 事業リーフレット	3
4-2	AP 事業の取組を学外へ適切に広報し情報提供していたか	徳島大学ウェブページ「大学教育再生加速プログラム (AP)」報告「AP シンポジウム (「アクティブ・ラーニング」「反転授業))」「学外への情報発信」報告	4

◆参考

- 自己評価については、事業 2 年目 (SIH 道場実施年度) から毎年度行い、事業改善を行う。
- 事業最終年度には総合評価を行い、事業全体の目標に到達できたかどうかを評価する (別途項目を作成)。

◆外部評価の流れ

- 1) AP 実施専門委員会による自己評価
- 2) 平成 27 年度事業実施報告書 (自己評価報告書) の作成
- 3) 外部評価委員会による外部評価
 - ・各委員の外部評価⇒委員会において総評をとりまとめる
 - ・委員会による各コメント、評価結果を含め、次年度の報告書に掲載

平成 26 年度文部科学省大学教育再生加速プログラム採択 テーマ I (アクティブ・ラーニング)

平成 27 年度徳島大学 大学教育再生加速プログラム事業実施報告書
学生と教員が共に成長する「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」

発行日：平成 28 年 3 月

発行：徳島大学 大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

編集：久保田 祐歌(大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員)